

キリスト教社会福祉学研究

46号

Christian Social Welfare Science

2013

CSWWS

| | | |
|----------|--|--|
| 巻頭言 | 御言葉は速やかに走る I 公共福祉とケアの神学 II ソーシャルワークにおける対人援助の哲学に関する考察 —ソーシャルワークの価値とキリスト教思想の視点より— | 山本 誠 稲垣 久和 |
| 投稿論文 | I 賀川豊彦と韓国とのかかわりに関する研究 II “愛による援助”モデル再考 ロジャーズのカウンセリング理論における実存主義への傾斜 III アガペーとエロース、その統合 —ボンヘッファーおよびニエグレン理解を巡って— IV 癒しの思想 —マルコ福音書のイエスの癒しにみられる人格的癒し— 「母子関係への介入」に関する先行研究の学問領域による比較 知的障害者の母親に対する子離れ支援に向けたソーシャルワーク研究の課題 | 滝口 真 李 善恵 今堀 美樹 柘植 秀通 島田 裕子 植戸 貴子 |
| 研究ノート | 「東日本大震災の被災地・被災者に日本キリスト教社会福祉学会の会員が勤務する社会福祉法人(福祉施設)がおこなった支援」についての調査報告 | 山本 誠 原田 豊己 |
| 調査報告 | 柴田 謙治・石倉 智史・稲松 義人 | |
| 第54回大会特集 | 開会礼拝 説教 「平和への思い—A・レーモンド」 基調講演 「絆とは何か —ホームレス支援・震災支援からキリスト教社会福祉を考える—」 シンポジウム 「今日におけるキリスト教社会福祉の役割 —希望の光が見える新たな社会づくり—」 発題要旨1 「今日におけるキリスト教社会福祉の役割」 発題要旨2 「キリスト教社会事業としての鳥取こども学園の歩み」 特別講演 「置かれたところで咲く」 パネルディスカッション 「キリスト者は支え合いの社会を目指して何をなすべきか—当事者の視点から—」 発題要旨1 「歴史と現地から、残されたハンセン病諸課題を考える」 発題要旨2 「キリスト者は支え合いの社会を目指して何をなすべきか—」 発題要旨3 「愛した人が重度身体障がい者でした —目の前に置かれた人の友となる—」 | 奥田 知志 幸田 和生 藤野 興一 渡辺 和子 難波 幸矢 太田 直宏 |
| 書評 | I 岡本榮一監修 『なぎさの福祉コミュニティを拓く—福祉施設の新たな挑戦—』 II 室田保夫著 『近代日本の光と影 慈善・博愛・社会事業をよむ』 | 池田 さおり 松永 俊文 杉山 博昭 |